

## 平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月10日

上場取引所 東

上場会社名 明治ホールディングス株式会社

コード番号 2269 URL <http://www.meiji.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐藤 尚忠

問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長

(氏名) 梅本 隆司

TEL 03-3273-3917

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日

平成23年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	548,121	△2.1	7,413	△58.9	8,668	△54.8	2,359	△74.8
23年3月期第2四半期	559,729	0.8	18,038	32.9	19,197	42.8	9,378	73.5

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 2,599百万円 (△54.5%) 23年3月期第2四半期 5,719百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	32.03	—
23年3月期第2四半期	127.26	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	735,518	295,185	39.2
23年3月期	716,368	293,530	40.2

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 288,264百万円 23年3月期 287,782百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
24年3月期	—	40.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,116,000	0.4	21,000	△29.9	22,000	△27.8	10,000	4.7	135.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細は、[添付資料]5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」、および11月10日発表の「平成24年3月期 第2四半期累計期間における業績予想値と実績の差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]5ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期2Q	76,341,700 株	23年3月期	76,341,700 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

24年3月期2Q	2,673,507 株	23年3月期	2,671,471 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	73,669,071 株	23年3月期2Q	73,694,351 株
----------	--------------	----------	--------------

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提条件その他の関連する事項については、[添付資料]5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	5
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(5) セグメント情報等 .....	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	12
(7) 重要な後発事象 .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (円 銭)
当第2四半期 連結累計期間	548,121	7,413	8,668	2,359	32.03
前第2四半期 連結累計期間	559,729	18,038	19,197	9,378	127.26
対前年同期 増減率(%)	△2.1	△58.9	△54.8	△74.8	—
対第2四半期連結累計 期間計画増減率(%)	+4.0	+34.8	+23.8	+18.0	—

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災の影響による生産活動の停滞や輸出の大幅な減少からは持ち直しつつあるものの、欧州・米国の景気の後退懸念や円高の進行により先行きの不透明感が増しており、雇用情勢や個人消費は依然厳しい状況が続いております。

こうした中、当期は、とりわけ甚大な被害を受けた乳製品をはじめ各事業への震災影響を勘案して減収減益の計画とし、上期中は回復を急ぎ、下期に震災前のペースに戻すべく取り組みを進めております。菓子、医薬品は第1四半期中に、また乳製品事業も当第2四半期までに概ね復旧し、売上は着実に回復してきておりますが、利益についてはいまだ厳しい状況にあります。

当第2四半期連結累計期間につきましては、計画に対する進捗は概ね想定どおりではありますが、計画停電やサプライチェーン寸断の影響が尾を引き、市乳や栄養食品などが大きく前年同期を下回りました。

その結果、売上高は5,481億21百万円（前年同期比2.1%減）、営業利益は74億13百万円（同58.9%減）、経常利益は86億68百万円（同54.8%減）に、四半期純利益は震災費用などの特別損失を計上した結果、23億59百万円（同74.8%減）となりました。

なお、計画対比では、売上高4.0%増、営業利益34.8%増、経常利益23.8%増、四半期純利益18.0%増の結果となり、震災前の通常ペースへの回復は着実に進んでおります。

※本年4月1日、当社傘下の事業子会社を「株式会社 明治」（食品）と「Meiji Seika ファルマ株式会社」（薬品）に再編したことに伴い、報告セグメントを「食品」と「医薬品」に変更しております。  
詳細は添付の参考資料を参照いただきご確認ください。

#### [セグメント別の概況]

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結 損益計算書 計上額
	食品	医薬品	計		
売上高	490,589	58,568	549,158	△1,037	548,121
営業利益	2,663	4,320	6,984	429	7,413

(注) 事業再編に伴い報告セグメントを「食品」と「医薬品」に変更しました。  
詳細は添付をご参照ください。

①食品セグメント（株式会社 明治の事業に相当）

（単位：百万円）

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期 増減率(%)
売上高	502,629	490,589	△2.4
営業利益	13,058	2,663	△79.6

（注）前期期首より新セグメントで実行したと仮定した場合の数値を前期実績としております。

当セグメントでは、震災被害から早期に回復した菓子および健康機能食品が堅調に推移、また市乳は特に第1四半期において前年売上実績を大きく下回ったものの、第2四半期において概ね想定どおりの回復となり、全体の売上高は前年同期比2.4%減にとどまりました。一方、市乳の品種構成悪化や栄養食品の売上減などが響き、営業利益は大幅減となりました。主な事業別概況は次のとおりです。

■乳製品事業（牛乳類、ヨーグルト、飲料、チーズ、バター、業務用乳製品等）

市乳では、第1四半期に売上大幅減となった「明治ブルガリアヨーグルト」「明治プロビオヨーグルトLG21」が第2四半期における積極的なマーケティング活動により、前年同期並みまで回復しました。また、市販用ナチュラルチーズや、本年3月発売の「オフスタイル」が好調に推移したマーガリンは前年同期を上回りました。

■菓子事業（チョコレート、ガム、キャンデー、輸入菓子、アイスクリーム、スイーツ、業務用（製菓・食材）等）

菓子では、ロングセラー商品の「アーモンドチョコレート」「きのこの山」「たけのこの里」や、新商品を追加した「ガルボ」などが前年同期を上回りました。一方、新たに菓子事業に組み入れたアイスクリームは「明治エッセルスーパーカップ」はほぼ前年同期並みに、また本年9月発売の「チョコレートアイスクリームバー」「ミルクチョコレートアイスクップ」は高い採用率で好調に推移しています。

■健康栄養事業（スポーツ栄養、健康機能、食品、OTC、粉ミルク、流動食、病態食等）

健康では、マーケティング活動が奏功した「アミノコラーゲン」「ザバス」、ゼリー飲料が好調だった「パーフェクトプラス」などが前年同期を上回りました。一方、栄養では、粉ミルクが震災直後のまとめ買いの反動などによる需要減少により前年同期を下回りましたが、流動食は生産・供給能力回復によりほぼ前年同期並みとなりました。

②医薬品セグメント（Meiji Seika ファルマ株式会社の事業に相当）（単位：百万円）

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期 増減率(%)
売上高	58,002	58,568	+1.0
営業利益	4,835	4,320	△10.6

（注）前期期首より新セグメントで実行したと仮定した場合の数値を前期実績としております。

当セグメントでは、売上高はわずかに前年同期を上回りましたが、営業利益は研究開発費の支出増により前年同期を下回りました。主な事業の概況は次のとおりです。

■医療用医薬品

抗菌薬「メイアクト」「オラペネム」、抗うつ薬「リフレックス」、またジェネリック医薬品のカルシウム拮抗薬「アムロジピン錠明治」を中心に売上を伸ばし、前年同期を上回りました。

■生物産業（農薬・動物薬）

いもち病防除剤「オリゼメート」が前年同期を上回るとともに、本年4月発売の茎葉処理除草剤「ザクサ液剤」が売上に寄与しました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①当期末の資産、負債、純資産の状況

〔資産〕

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は7,355億18百万円と前連結会計年度末に比べて191億49百万円増加しました。これは商品及び製品が80億55百万円、投資その他の資産のその他が79億61百万円増加したことなどによるものです。

〔負債〕

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は4,403億32百万円と前連結会計年度末に比べて174億94百万円増加しました。これは短期借入金が362億42百万円、長期借入金101億84百万円減少した一方、社債を350億円発行したことおよび支払手形及び買掛金が90億91百万円、コマーシャル・ペーパーが200億円増加したことなどによるものです。

〔純資産〕

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は2,951億85百万円と前連結会計年度に比べて16億55百万円増加しました。これは少数株主持分が11億73百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は39.2%（前連結会計年度末は40.2%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

区 分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,843	6,269	△23,574
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,964	△22,754	△3,790
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,503	4,590	17,094
現金及び現金同等物に係る換算差額	△162	70	233
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,787	△11,823	△10,035
現金及び現金同等物の期首残高	16,061	21,741	5,680
新規連結による現金及び現金同等物増加額	21	1,281	1,260
現金及び現金同等物の期末残高	14,295	11,200	△3,095

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の減少、売上債権の増加・たな卸資産の増加による支出増などにより、前年同四半期より235億74百万円収入減の62億69百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が増加したことなどにより、前年同四半期より37億90百万円支出増の227億54百万円の支出となりました。

これにより、フリー・キャッシュ・フロー（営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計額）は前年同四半期より273億64百万円支出増の164億84百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、金融債務が増加したことなどにより、前年同四半期より170億94百万円収入増の45億90百万円の収入となりました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は112億円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,093,000	21,000	22,000	10,000
今回発表予想 (B)	1,116,000	21,000	22,000	10,000
増減額 (B-A)	23,000	—	—	—

通期の業績予想の売上高については上期計画を上回った分を増額修正いたしました。一方、利益については上期計画を上回ったものの、第3四半期以降に医薬品セグメントにおける研究開発費・販売費の支出増などが見込まれるため、前回予想を据え置きます。

2. サマリー情報 (その他) に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) その他

(不動産賃貸に関わる表示方法の変更)

不動産賃貸事業に係る賃貸収益は従来売上高に計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より営業外収益の不動産賃貸料に計上するとともに関連する原価を営業外費用の不動産賃貸原価に計上し、有形固定資産に計上していた不動産賃貸事業に関わる固定資産を投資その他の資産に計上する方法に変更しております。これは、グループ内の会社再編に伴う新たな事業体制において不動産事業の管理体制を変更したことによりグループとして不動産事業の重要性が低下したため、表示方法を変更したものであります。

また、従来社宅費用の従業員負担分、本社等の一部賃貸に伴う賃貸収益を営業外収益の固定資産賃貸料として計上するとともに、関連する減価償却費等を売上原価又は販売費及び一般管理費に計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より賃貸収益を売上原価又は販売費及び一般管理費から控除する方法に変更しております。これは、不動産事業に関わる表示区分の見直しに伴い社宅費用等の表示区分を検討した結果、実質的な費用負担を明確にし、営業損益をより適正に表示するために表示方法を変更したものであります。

当該表示方法の変更は遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第2四半期連結累計期間の売上高は1,579百万円減少し、営業利益は492百万円増加しておりますが、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ影響ありません。また、前連結会計年度において「有形固定資産」に含めて表示しておりました賃貸用物件に係る固定資産21,118百万円（建物及び構築物19,767百万円、土地1,237百万円、その他114百万円）は、「投資その他の資産」の「その他」として表示しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,759	11,498
受取手形及び売掛金	146,377	150,254
商品及び製品	72,654	80,709
仕掛品	1,895	3,509
原材料及び貯蔵品	30,601	30,744
その他	28,721	32,891
貸倒引当金	△333	△344
流動資産合計	301,676	309,264
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	259,986	269,915
減価償却累計額	△144,267	△147,462
建物及び構築物（純額）	115,719	122,452
機械装置及び運搬具	413,019	423,457
減価償却累計額	△313,204	△320,683
機械装置及び運搬具（純額）	99,814	102,773
工具、器具及び備品	55,992	56,244
減価償却累計額	△46,274	△46,760
工具、器具及び備品（純額）	9,717	9,483
土地	65,214	65,363
リース資産	5,796	6,570
減価償却累計額	△1,463	△1,921
リース資産（純額）	4,333	4,648
建設仮勘定	18,950	12,029
有形固定資産合計	313,750	316,751
無形固定資産		
のれん	1,582	1,454
その他	8,144	7,975
無形固定資産合計	9,726	9,429
投資その他の資産		
投資有価証券	34,926	35,420
その他	57,058	65,020
貸倒引当金	△770	△367
投資その他の資産合計	91,215	100,072
固定資産合計	414,692	426,253
資産合計	716,368	735,518



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	92,157	101,248
短期借入金	87,989	51,746
1年内償還予定の社債	—	20,000
コマーシャル・ペーパー	21,000	41,000
未払法人税等	3,902	4,648
賞与引当金	9,585	10,087
返品調整引当金	241	236
売上割戻引当金	6,092	5,378
その他	80,366	74,804
流動負債合計	301,333	309,150
固定負債		
社債	55,000	70,000
長期借入金	28,821	18,637
退職給付引当金	17,125	17,864
役員退職慰労引当金	390	392
その他	20,166	24,286
固定負債合計	121,504	131,181
負債合計	422,838	440,332
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	98,852	98,852
利益剰余金	172,128	172,578
自己株式	△9,255	△9,262
株主資本合計	291,724	292,168
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,072	3,346
繰延ヘッジ損益	△2,899	△3,477
為替換算調整勘定	△4,115	△3,772
その他の包括利益累計額合計	△3,942	△3,904
少数株主持分	5,748	6,921
純資産合計	293,530	295,185
負債純資産合計	716,368	735,518

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	559,729	548,121
売上原価	370,089	369,120
売上総利益	189,640	179,000
販売費及び一般管理費	171,601	171,586
営業利益	18,038	7,413
営業外収益		
受取利息	20	28
受取配当金	597	563
不動産賃貸料	1,499	1,346
受取補償金	2,000	1,500
持分法による投資利益	208	128
その他	705	596
営業外収益合計	5,030	4,163
営業外費用		
支払利息	1,162	1,001
為替差損	796	477
不動産賃貸原価	1,298	959
その他	614	470
営業外費用合計	3,871	2,909
経常利益	19,197	8,668
特別利益		
固定資産売却益	129	272
その他	217	34
特別利益合計	346	306
特別損失		
固定資産廃棄損	1,005	599
災害による損失	—	789
事業再編費用	—	715
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	462	—
その他	647	650
特別損失合計	2,115	2,754
税金等調整前四半期純利益	17,428	6,220
法人税等	7,854	3,724
少数株主損益調整前四半期純利益	9,574	2,496
少数株主利益	195	136
四半期純利益	9,378	2,359

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	9,574	2,496
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,322	271
繰延ヘッジ損益	△465	△578
為替換算調整勘定	△1,057	409
持分法適用会社に対する持分相当額	△10	1
その他の包括利益合計	△3,855	103
四半期包括利益	5,719	2,599
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,708	2,398
少数株主に係る四半期包括利益	10	200

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	17,428	6,220
減価償却費	20,194	19,798
のれん償却額	139	127
有形固定資産除却損	1,005	599
投資有価証券評価損益 (△は益)	94	417
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	92	△395
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,294	501
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△2,435	△2,024
受取利息及び受取配当金	△617	△591
支払利息	1,162	1,001
持分法による投資損益 (△は益)	△208	△128
有形固定資産売却損益 (△は益)	△97	△251
売上債権の増減額 (△は増加)	1,712	△2,432
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,006	△9,682
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,461	8,503
その他	△2,164	△11,354
小計	40,055	10,308
利息及び配当金の受取額	705	599
利息の支払額	△1,044	△1,043
法人税等の支払額	△9,872	△3,594
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,843	6,269
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△18,603	△19,889
無形固定資産の取得による支出	△1,042	△1,138
有形及び無形固定資産の売却による収入	850	268
投資不動産の取得による支出	△11	△5
投資不動産の売却による収入	—	520
投資有価証券の取得による支出	△260	△117
投資有価証券の売却による収入	115	14
その他	△12	△2,405
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,964	△22,754
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△501	△44,247
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	△1,000	20,000
長期借入金の返済による支出	△4,367	△2,249
社債の発行による収入	—	34,838
自己株式の増減額 (△は増加)	△48	△6
配当金の支払額	△5,837	△2,928
少数株主への配当金の支払額	△136	△119
その他	△611	△695
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,503	4,590
現金及び現金同等物に係る換算差額	△162	70
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,787	△11,823
現金及び現金同等物の期首残高	16,061	21,741
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	21	1,281
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,295	11,200

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	502,223	57,505	559,729	—	559,729
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	405	497	902	(△902)	—
計	502,629	58,002	560,632	(△902)	559,729
セグメント利益	13,058	4,835	17,893	145	18,038

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額145百万円には、セグメント間取引消去62百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用82百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	490,038	58,083	548,121	—	548,121
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	551	485	1,037	(△1,037)	—
計	490,589	58,568	549,158	(△1,037)	548,121
セグメント利益	2,663	4,320	6,984	429	7,413

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額429百万円には、セグメント間取引消去34百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用395百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、当社グループは吸収分割契約に基づくグループ内会社再編を実施し、傘下の事業会社に「株式会社 明治」（食品事業会社）と「Meiji Seika ファルマ株式会社」（薬品事業会社）を置く新たな経営体制をスタートさせました。

これに伴い報告セグメントを変更しており、従来の「乳製品」「菓子・健康」「医薬品」から変更後は「食品」「医薬品」となっております。

・食品・・・(株)明治の事業

・医薬品・・・Meiji Seika ファルマ(株)の事業

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は変更後のセグメント区分で記載しております。また、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、5ページ「2. サマリー情報（その他）」に関する事項（4）その他」に記載の「不動産賃貸に関わる表示方法の変更」を遡及適用して記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

のれんの金額の重要な変動はありません。

（重要な負ののれん発生益）

重要な負ののれんの発生はありません。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（7）重要な後発事象

該当事項はありません。